

協働による公共交通とまちづくりのすすめ



構 想 編

1 公共交通を活かしたまちづくり

(1) “あなたは、車がなくても気軽に出かけられますか”

あなたがいつも使う車がないと、何にもできないと思っていませんか。

車で送ってくれる人がいないと、どこへも出かけられないと思っていませんか。

福井に来てもらっても、車がないとどこへも案内できないと思っていませんか。

雪のときには、電車やバスを車に優先して走らせるべきだと思いませんか。

電車やバスは、使い方によって生活を豊かにできることを知っていますか。

車がなくても気軽に出かけられるように、また、時には車を使わないように、私たちの生活のしかたを変えることも必要ではないでしょうか。もう一度考えてみませんか。

(2) 「公共交通」と「まちづくり」のあるべき姿

ROBAの会では、わたしたちまちの将来像として、「車との共存」による『つないで生きる！公共交通とまちづくり』を提案します。

生活しやすいまちには、車に頼らなくても、電車やバスといった公共交通で便利に行動できることが不可欠です。

福井は、車に頼ったまちですが、車と公共交通がそれぞれの長所を活かし、短所を補う「車と公共交通との共存」により、便利な公共交通の環境をつくり、地域に住む人、働く人、訪れる人、また子どもやお年寄りにとって、また日ごろ車にしか乗らない人にとっても、快適で豊かな暮らしやすいまちの基礎ができると考えます。





2. つないで生きる！公共交通とまちづくり

『つないで生きる！公共交通とまちづくり』とは、公共交通と公共交通を、車と公共交通をつなぐことで、地域と地域を、中心街と郊外を、人と人をつなぎ、まちに活力を与え、まちづくりを進めていくことです。





快適で便利な公共交通

公共交通に求められることは、利用者にとって快適で便利であることです。まちを移動するための交通手段として、誰もがどこへでも気軽に利用できれば、生活の足になります。少し待つだけで乗れて、乗ることが楽しくて、まちを彩る電車やバスあったらいいと思いませんか。それに、ワンコインなら、小さい子供でも平気で乗れるようになります。



万葉線の低床車両

誰もがどこへでも快適に

誰もがどこへでも気軽に出かけられるように、福井の電車やバスを活かした快適な電車やバスのネットワークがあるといいですね。窓の外の景色や車内の人たちの衣服が四季の変化を感じさせてくれます。それは、毎日のちょっとした楽しみ。

少し待つだけで

大都市では5分も待てば次の電車がきます。これは福井じゃ無理かもしれないけど、10~15分ぐらいならできそうだし、それなら苦になりませんよね。

まちを彩る車両で

岡山市のMOMOや高岡市の万葉線では、低床の路面電車が街を走っています。ユニホームや電停、案内標識、関連グッズなどにトータルデザインを取り入れたMOMOは街のシンボルのひとつになっています。



MOMO (岡山市)



MOMOのトータルデザイン

ワンコインで

福井市が運行するコミュニティバス「すまいる」は、乗車区間にかかわらず1回100円の運賃で運行されています。歩いてちょっと疲れたら、ポケットのコインやカードで、手軽で便利に利用したいですね。



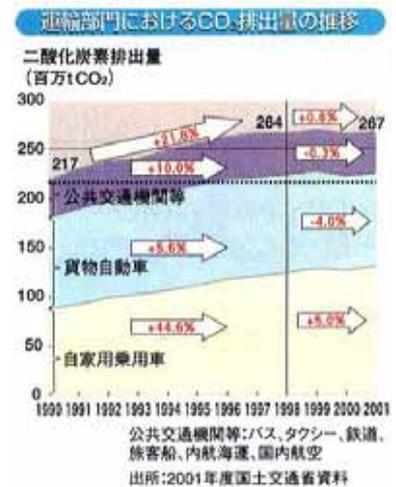
安全で安心して使える公共交通

公共交通に求められることのもうひとつは、安全な交通施設であり、安心して利用できることです。公共交通は温室効果ガスの排出量が少なく、地球環境にやさしい交通施設です。誰もが利用できて、乗り降りにも心配のいらない、人にやさしい交通施設であれば、みんなが安心して乗れるようになります。



環境にやさしく

地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの排出割合は、運輸部門が全体の22.0%あり、そのうちの9割を自動車が占め、その半分が自家用車から排出されています。また、公共交通機関等や貨物自動車からの排出量は減少していますが、自家用車の排出量は増加しています。



誰もが利用できる

電車のホームや車両のステップ、バスの乗降口の段差は、それだけで子供やお年寄り、体の不自由な人にとって、大きな障害となります。

誰もが支障なく快適に利用できるユニバーサルデザインによって、駅やバス停の施設や電車、バスの車両が改善されるといいですね。

心配のいらない

駅やバス停での待ち時間に急な雨が降ってきて、傘を開くことなく、座って待っていられたら、待ち時間も短く感じるのではないのでしょうか。

この春、福武線の福井駅前停留所が大幅に改善され、屋根や手すり、スロープが設けられました。これで、乗降の際に多少の雨や、脇を通過する自動車が気にならなくなります。



ROBA認定優良バス停（木田四ツ辻）

ROBAの会では、バス停については独自の認定基準を設け、優良バス停を認定する活動を行っています。

人にやさしく

バスや電車はいろんな人が利用するので、みんなが安心して乗れるように、お互いに助け合ったりすることが必要です。えちぜん鉄道では「アテンダント」が乗車して利用者のサポートを行っており、杖を持ったお年寄りも、車椅子の方も心強いですね。



駅員とアテンダントによる支援



わかりやすい案内

わかりやすい路線図や時刻表、運賃表などの情報は、公共交通を利用するうえで最低限必要な情報です。駅での乗り継ぎの案内サインや観光案内所情報、レンタサイクルや多目的トイレなどのサービス情報があらかじめ分かれば、公共交通はもっと利用しやすくなります。いつでも手元に置いておけるようにしたいですね。



のりのりマップの表紙
(ROBAの会作成)

路線の情報を (のりのりマップ)

「バス乗り場がわかりにくい。」「中心街までは行けても、その先どのバスに乗ればいいのかかわからない」「バスはなんとなく不安があって苦手」そんな声が多いのが今の福井の状況です。安心して利用するためにはわかりやすい案内や情報は不可欠です。



のりのりマップ <http://f12.aacafe.ne.jp/~norimap/>

時刻の情報を

また、この春、福井県と(社)福井県バス協会、ROBAの会が協働して、「ばすでんしやねっと・ふくい」のホームページを開設しました。 <http://www3.ocn.ne.jp/~fba/>

駅サービス情報を

「駅にどんなサービスがあるかあらかじめ知っておきたい。」という声を聞きます。駅にあるいろんなサービス情報が手軽に入手できれば、利用しやすくなります。

駅の案内サインを

「駅がどこにあるかわかりにくい。」という声も多く聞きます。主要な道路のサインとして駅やP & R駐車場への入口を案内することが必要です。

いつでも手元に

公共交通の情報は、いつでも気軽に入手できる環境が一番です。駅やバス停まで行かなくても時刻表を確認できれば、待ち時間を短くすることができます。



利用できる施設がいっぱい

駅やバス停は利用者が多いところに設置されていますが、必ずしも利用したい施設の近くに駅やバス停があるわけではありません。駅の近くに施設を誘致したり、人がたくさん集まる施設の近くにバスや電車の駅を設置したり、駅そのものが人の集まる施設であったりすれば、公共交通は便利な移動手段になります。



駅やバス停の近くに

公共施設や商業施設は、たくさんの方が利用します。このため、駐車場を確保しやすい郊外に多くの施設が立地してきました。

車を利用できない人のために、郊外に立地する場合でも、既存の駅やバス路線の近くや駅を新設できるようなところを選んでいろんな施設を建てるようにすると、日ごろ車を使う人にとっても、車を使えない時や車で送ってもらえない時にはバスや電車で行けるし、みんなが利用できるようになっていいですね。

人が集まるところに

福井市南部に立地した福井県音楽堂（ハーモニーホール）は、福武線の沿線に建てられました。これに併せて、福武線にハーモニーホール駅が設置され、車でなくても施設を利用できるようになりました。

また、ショッピングセンターベルの近くにも、新たにベル駅が設置されています。

人が集まる公共施設や商業施設などの近くに駅やバス停があると便利ですよ。



ハーモニーホール駅（中部の駅百選）



桜町公民館を併設した西鯖江駅

人が集まる施設に

電車やバスで利用できるようにと、駅そのものを人が集まる施設にしてしまっていて利用しているところもあります。大きな駅の駅ビルだけではなく、小さな駅でも公民館などを併設した駅なども増えてきています。



待ってる間も楽しさいっぱい

電車やバスを待つあいだも、駅やバス停の近くに喫茶店やいろんなお店があれば、待ち時間を楽しく過ごせます。駅の近くにある街のいいものを探して利用しやすくしたり、駅を憩いの場やもてなしの空間とすれば、公共交通の魅力につながります。



まちのいいものを探して

まちにはいろんな宝があります。花や緑に彩れた通りや眺めのいい場所、おいしいケーキ屋に喫茶店、ちっちゃい神社のかわいいお祭り、などなど。こんな情報が駅やバス停にあれば、時間をつくってでも散策してくれます。

灯りは安心、憩いの場

JR越美北線美山駅では、駅舎に隣接して「美山観光ターミナル」とコンビニが開業しました。地元美山町をはじめとする活動で実現したもので、駅が明るくなり、駅への送り迎えや駅での待ち時間を快適に過ごせるようになりました。



積雪時の送迎で混み合う美山駅前



花や緑で飾られた駅

もてなしの駅空間

えちぜん鉄道、福井鉄道の駅が併設する田原町駅で、まちづくりグループ「風流塾」とROBAの会が協力して、駅を花や緑で飾りました。楽しく過ごせる工夫でくつろいでいただき、電車を1本乗り過ごしたくなるようにしていきたいものです。

また、越前大野駅では、おいしい井戸水を飲むことができます。地域のまちづくりとして、駅やバス停を大切にして、誰もが楽しく利用できるものにしたいですね。



工夫でなくす不便な外出

駅やバス停が近くになくて公共交通を利用できない人や、あっても利用できない人がたくさんいます。郊外のバス路線では便数も決して多くありません。誰もが気軽に外出できるように、地域の人たちが助け合うことが必要ですが、バス路線の見直しや地元企業の送迎バスなどを活用するなど、交通事業者や地域の工夫で外出が不便な地域をなくしていくことも大切です。



誰もが気軽に外出できる

家の近くの車通りのあまり激しくない道を通る「すまいる」は、毎日たくさんのお年寄りが利用しており、これまでより出かけ機会が多くなったようです。

また、体の不自由なひとでも気軽に外出できるように、外出に不便を感じているひとを支援する事業（外出支援事業）が行われています。

こうしたちょっとした工夫から、誰もが気軽に外出でき、いきいきとした生活が送れるようになるのではないのでしょうか。

バス路線を見直して

福井市内で運行されているほとんどのバス路線は、福井の中心街をターミナルとしています。中心街付近はバス路線が重複するため、便数は多くなりますが、郊外は便数が少なく、不便な地域が広がっています。

バス路線を見直して、バス路線のない地域にバスを運行することができれば不便な地域をなくしていけるのではないのでしょうか。

地域の企業や住民の工夫で

勝山駅の電車接続ジャンボタクシーは、勝山駅を市中心部と連絡するために、えちぜん鉄道再開に伴って運行されるようになりました。市民が長年希望している線路の延伸につながる一歩となるといいですね。

このほか、自動車学校や商業施設などの企業が独自に運行している送迎バスなどについても、空き時間や空席を利用できるような工夫がなされるといいですね。



電車接続タクシー（勝山市）



人との楽しいふれあい

バスや電車の利用を通していろんな人との出会いがあります。「おはようございます」のあいさつをしたり、利用者としてマナーを守ることも大切です。また、みんなで利用する駅をみんなで使いやすくすることも必要です。駅からのまちづくりに取り組むことで、駅が地域のみんなの宝として意識されるようになり、地域の人との楽しいふれあいが生まれ、まちの賑わいや地域のコミュニティが甦ってくると思っています。



「おはようございます」

毎日同じ時間の電車に乗れば、顔見知りができます。地域のまちづくりが進み、地域のコミュニティが生まれてきます。また、地域外の人たちとの交流や連携によって、より多くの人たちとの出会いがあります。

こうしたひとのふれあいから、まちづくりの大きな流れができてくるでしょう。

マナーを学ぶ

電車やバスでは、いろんな人と同じ時間を過ごすことになります。日ごろは家族だけで車を運転して出かけることが多く、はじめはちょっと窮屈かもしれませんし、回りへの気配りも必要となります。公共交通に乗るということは、子供のしつけや社会勉強の場としても役立ちます。

地域の交流

地域のイベントやお祭を利用して、電車やバスを使った交流が活発に行われるようになると、車を使わない生活を体験したり、地域と地域のいろんな交流が生まれます。

公共交通による協働のまちづくりが進めば、いろんな人といろんなつながりができ、もっと楽しく過ごせる、快適で便利な公共交通やまちが必要になってきます。これらの人と人の活動をつなぐ、大きな循環が出来上がります。

駅からのまちづくり

これまで、地域の中心だった駅前、待ち合わせの場所だった駅。

私たちの提案する、「つないで生きる！公共交通とまちづくり」がみんなに理解され、公共交通が見直されるようになれば、生活のスタイルも変わり、駅もまちも新しい形に変化していきます。

地域の再生は、『駅からのまちづくり』で始めていきたいと思っています。



3. 公共交通とまちづくりを実現するためのしくみづくり

公共交通を住民の日常生活の中に位置づけ、役立たせて、豊かな生活を確保するに、新しい公共交通とまちづくりの仕組みとして、まちづくりグループ（ROBAの会等）、地域住民の新しい役割と協働体制について提案します。

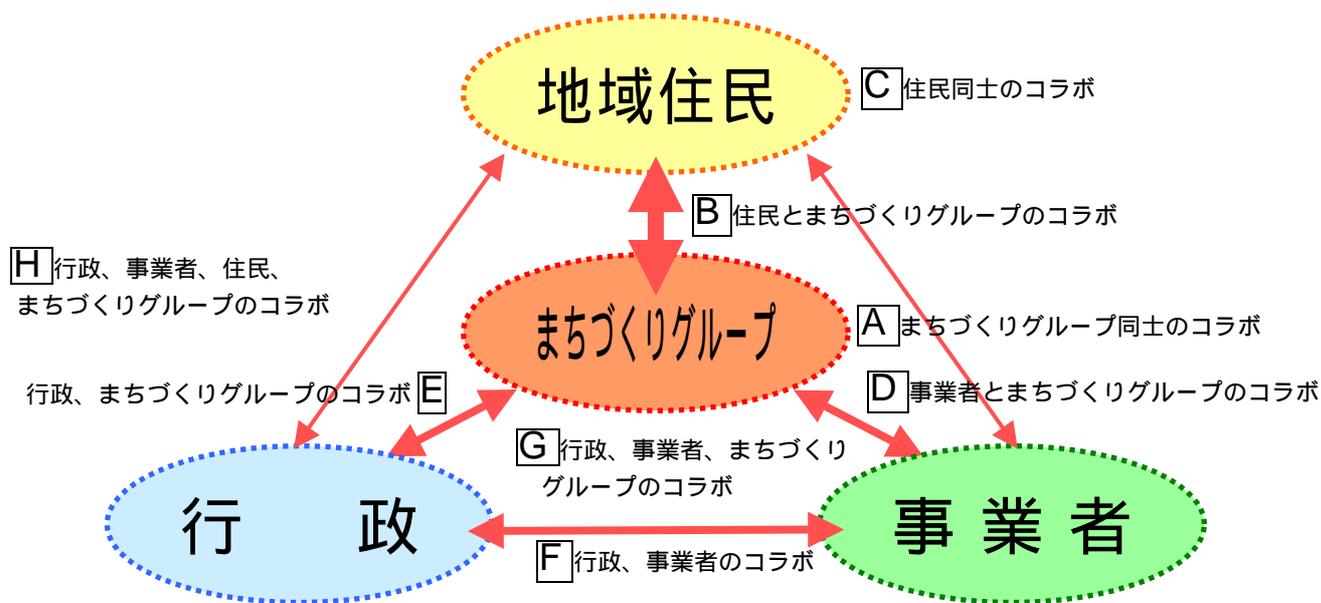
(1) 協働のまちづくりのしくみ

基本的には行政、事業者、地域住民、まちづくりグループが、それぞれの活動主体がそれぞれの立場に立って、はたすべき役割を確実に実行していくことが大切であり、そのためにもそれぞれの内部での協力をおろそかにすることはできません。それぞれの特色をもった活動主体が「協働」することで、より効果のある活動が展開できると考えています。

A B C : 利用者としての自らの意識改革、協働による「乗る」実践活動

D E : 行政や事業者との協働による「乗るしくみづくり」の実施

F G H : 行政、事業者、住民、NPOの協働による「まちづくり」や「公共投資」の実施



協働のまちづくりのしくみのイメージ

(2) 協働のまちづくりの実践シナリオ

協働のまちづくりを進めていくには、きっかけづくりや、展開方法など、継続的な活動を進めていくためのシナリオを同時に描いておく必要があります、このしくみは協働の公共交通とまちづくりの根幹を占めるものです。

「コラボ」(= 福井版まちづくりキャラバン) は、ROBAの会としても最も力を入れており、それぞれの特色をもった活動主体が「協働」することで、より効果のある活動が展開できると考えています。



実践編

4 . 協働による公共交通とまちづくりの実践と提案

実践編は、構想編に示した公共交通とまちづくりの実践報告です。

「地域の駅からのまちづくり」では、各駅や周辺の特徴を活かした公共交通のあり方を提案し、地域の住民の方々やまちづくりグループとのコラボを行うことで、地域のまちづくりのきっかけとなり、公共交通と地域のまちづくりの両面からのまちづくりを今後とも進めていくこととなります。

現時点では、地域の方々とのコラボを実践できていないところもありますが、今後引き続き実践を重ねていくためのツールのひとつとして、実践から得られたまちづくりのアイデアやヒントとROBAの会の提案を構想・計画としてまとめています。

「公共交通のシステムづくり」では、まちづくりや住民の移動を支える公共交通のシステムとして、これまでの活動を通じて得られたことをもとに提案しています。

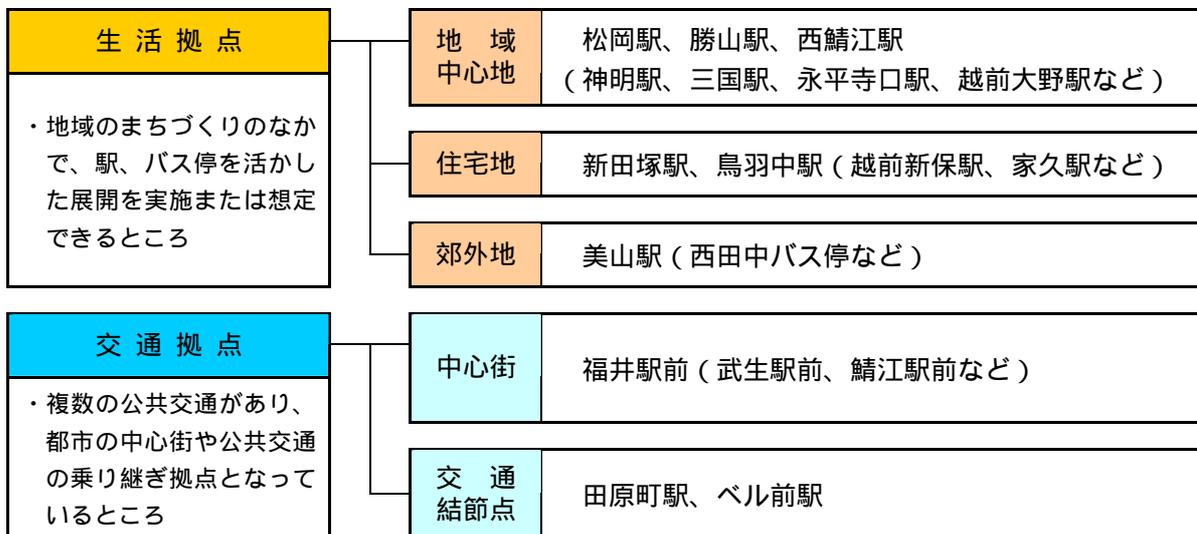


地域のまちづくりグループとのコラボ



行政・事業者とのコラボ
(公共交通まちづくりアドバイザー会議)

4 - 1 地域の駅からのまちづくりの実践と提案



生活拠点

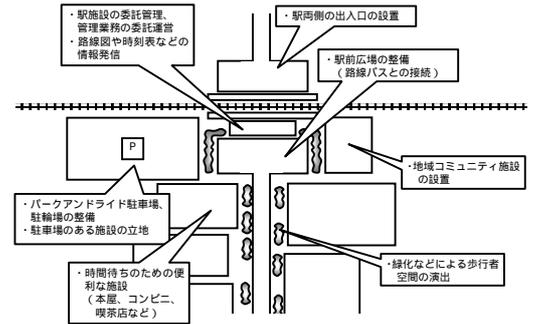
地域中心地の駅からのまちづくりの考え方

地域特性を活かしたまちづくり

- ・ 駅と施設を連絡する路線バスとの接続
- ・ 駅と施設を連絡する歩行者空間の整備
- ・ 便利で待ち時間を楽しめるまちづくり
- ・ 利便施設の設置（本屋、コンビニ、喫茶店など）

地域コミュニティと密着した駅の環境づくり

- ・ 地域コミュニティ施設の設置
- ・ 駅施設の委託管理、管理業務の委託運営



住宅地の駅からのまちづくり

便利で待ち時間を楽しめるまちづくり

- ・ 利便施設の設置（本屋、コンビニ、喫茶店など）
- ・ 路線図や時刻表などの情報発信

地域コミュニティと密着した駅の環境づくり

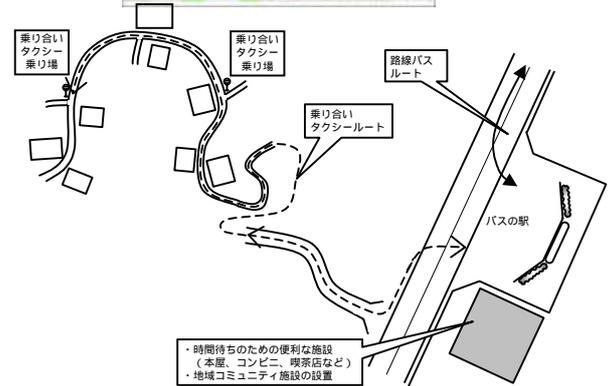
- ・ 地域コミュニティ施設の設置
- ・ 駅施設の委託管理、管理業務の委託運営



郊外地の駅からのまちづくり

バスの駅との接続による日常の足のあるまちづくり

- ・ バスの駅の設置
- ・ 利便施設の設置（本屋、コンビニ、喫茶店など）
- ・ 地域コミュニティと密着した駅の環境づくり
- ・ 地域コミュニティ施設の設置
- ・ 利便施設の設置（本屋、コンビニ、喫茶店など）



交通拠点

中心街の駅からのまちづくり

歩行者や自転車でゆっくり楽しめるまちづくり

- ・ まちなかの魅力アップ（物販、文化、交流など）
- ・ 歩行者空間の整備（歩道の拡幅、サインなど）
- ・ 便利で分かりやすい交通結節機能のあるまちづくり
- ・ 電車、バスのスムーズな接続（駅前広場の整備）
- ・ 路線図、時刻表等の分かりやすい提供
- ・ 低床型電車の導入

交通結節点の駅からのまちづくり

便利で分かりやすい交通結節機能のあるまちづくり

- ・ 電車、バスのスムーズな接続（駅前広場の整備）
- ・ パークアンドライド駐車場の整備
- ・ 待ち時間を気にせず楽しめるまちづくり
- ・ 待ち時間の有効活用、歩行者空間の整備





4 - 2 公共交通のシステムづくり

公共交通システムの基幹となる電車、バスのネットワーク

福井の公共交通に今求められている環境は、利用者にとって快適で便利であることです。これを実現するために最も重要なことは、利用者が電車やバスの時間を気にすることなく、駅やバス停に行き、最小限の待ち時間で乗車できる基幹となる路線のある公共交通システムを提供することだと考えます。

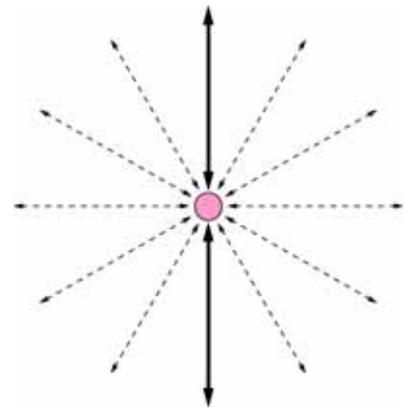
同じ運行本数で運営する場合でも、このような基幹路線とそのほかの路線とがうまく分担し合って連携することで、より高いサービス水準が提供できます。

これまでの基幹路線を持たない一極集中型の公共交通運行システムは、利用者の目的地が分散している現在の都市の構造、すなわち生活スタイルに対応できないばかりか、公共交通利用者の減少により公共交通の経営をも圧迫し、運行本数の削減によるコスト削減、サービス水準の低下、利用者の減少という、まさに悪循環に陥っています。

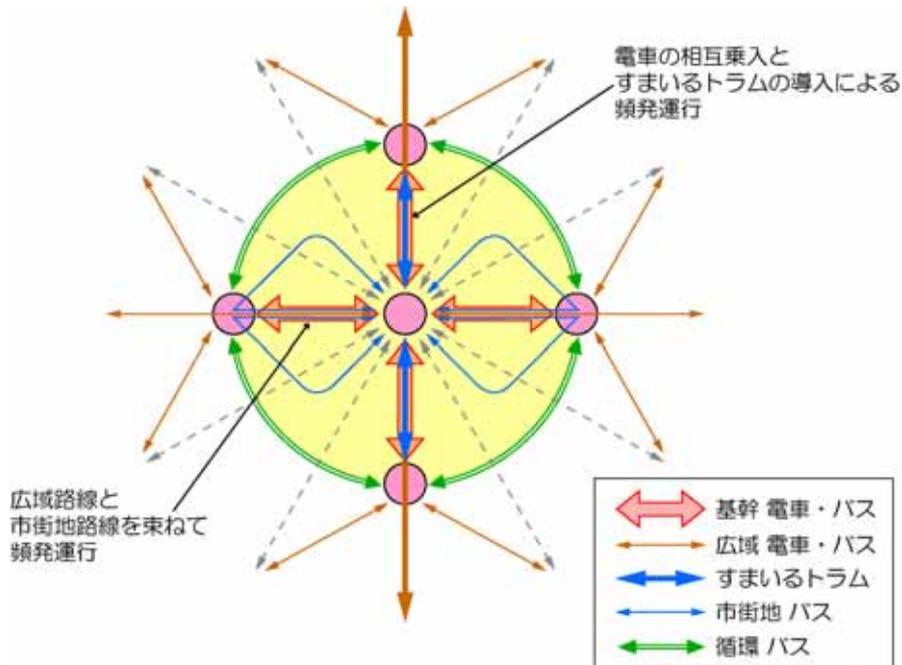
そのため、まず利用需要の多い福井市街地内の区間において、電車やバスの頻発運行を行うべき基幹路線を設定して、利用者にとって快適で便利な電車バスのネットワークを構築することが、最優先して取り組むべき交通施策だと考えます。

このため、市街地の公共システムとして、以下のことを提案します。

- 東西南北方向の基幹となる電車・バスの運行
- 交通結節点からつながる循環バス・支線バス



現在の公共交通システムの概念図



福井の公共交通システムの概念図



・なめらかな乗り継ぎを提供する交通結節点

福井の公共交通システムづくりを進めるためには、基幹となる電車・バスに接続する支線となる公共交通網が必要になり、これには、スムーズな乗り継ぎを提供する交通結節点の整備が不可欠です。乗り継ぎの不安や抵抗をなくすためのソフト、ハードの対策も重要です。



ホーム to ホームの事例（高岡駅）

・快適で安全な運行を支える低床型車両の導入

「快適で安全で、楽しくなければ公共交通ではない」と子供たちは、それが当然のように意見を述べてくれました。そのような運行ができる公共交通システムになるように、低床型車両の導入や軌道の整備を行うべきです。

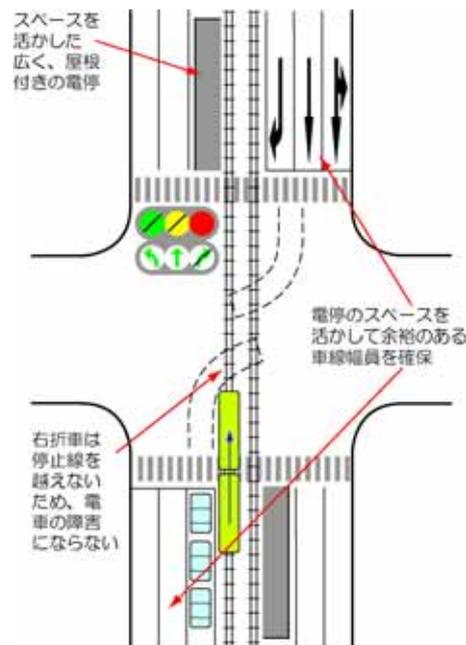
すべての路線をユニバーサルデザイン化することが理想ですが、段階的な措置としてまず需要の多い基幹路線から先行してバリアをなくしていくことを提案します。特に新田塚駅からベル駅までの区間に低床型車両（仮称「すまいるトラム」）の導入と電停の改善を提案します。

・共同運営などによる効果的な運行、整備

福井の公共交通システムづくりには、それぞれの公共交通事業者が連携し、それぞれがもつ交通基盤を共有したうえで、運行・整備を行うことが必要であり、それによって、より充実した交通サービスを提供することが可能となります。



福井の市街地を走るすまいるトラムのイメージ



安全な交差点、電停への改善案

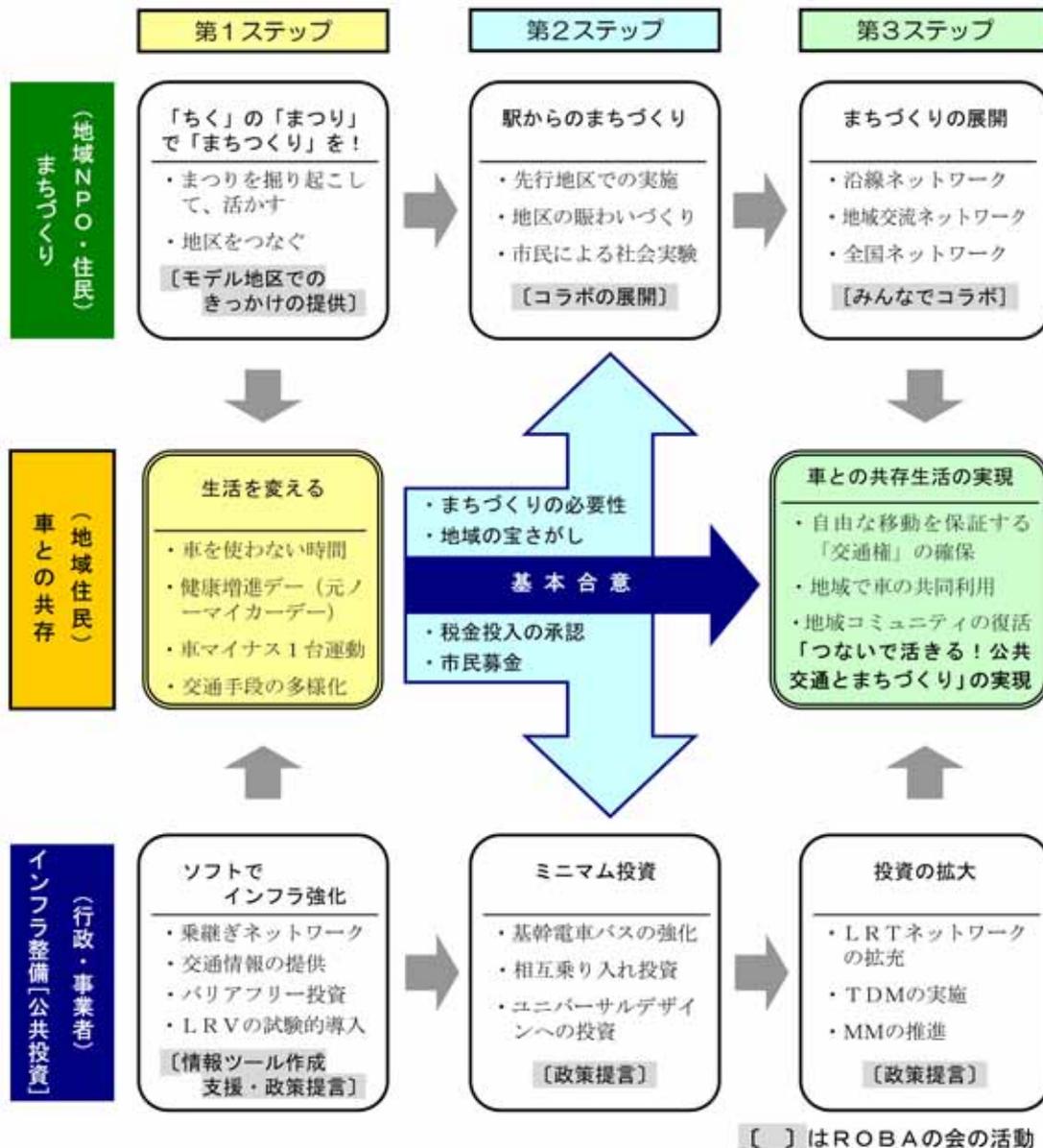


5. 公共交通とまちづくりのアクションプログラム

今回の活動を通じて、公共交通を見直すことが地域のまちづくりのきっかけとなることを確認し、利用者の声を反映した継続的な活動の重要性を実感しました。

ROBAの会では、今回の取り組みによって作成した「協働による公共交通とまちづくりのすすめ」を用いて、地域住民とのコラボレーションの輪を広げることで、その成果を地域のまちづくり計画に蓄積し、一方では政策提言にも反映させながら、公共交通とまちづくりを進めていきます。それによって、地域の人たちの「車との共存」による豊かな生活が実現するものと考えています。

公共交通とまちづくりのアクションプログラム



【ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBAの会)】

事務局 〒918-8031 福井市種池1丁目1905-3 TEL: 0776(25)7968 FAX: 0776(36)4454

E-mail roba@mbh.nifty.com HP <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>